

【様式】

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名( 津西高等学校 )

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高い知性と豊かな感性を備え、高い志と広い視野を持って、夢の実現に向け行動する、たくましい生徒の育成を目指す学校</li> <li>○ 豊かな人間性と社会性を持ち、社会の進展に主体的に対応して、国際社会、地域社会に貢献する生徒の育成を目指す学校</li> </ul>
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 確かな学力と実践力</li> <li>○ 物事の本質を明らかにしようとする探究心</li> <li>○ 高い自己肯定感と健全な心身</li> </ul>
	ありたい教職員の姿	社会の変化に応じて価値観や考え方を更新し学び続ける教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	(生徒) <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自ら学び続ける力、進路実現に向けた支援</li> </ul> (保護者) <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自ら学び続ける力、進路実現に向けた支援、人格の陶冶</li> </ul> (地域) <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域を担う人材の輩出</li> </ul>	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	(中学校) <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高校生活の発信</li> </ul> (進学先) <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 確かな学力と探究心の育成</li> </ul> (地域) <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域に対する理解を深める</li> </ul>	(中学校) <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎学力の育成</li> </ul> (進学先) <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の積極的な受け入れ</li> </ul> (地域) <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校教育(探究活動)への参画</li> </ul>
(3)前年度の学校関係者評価など	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遠隔授業の取組により、学習保障はできるが、長期に渡る不登校の場合、状況の改善に繋がる取組にしていく必要がある。</li> <li>○子どもたちには、探究活動等、人との関わりを持つ活動を通じて、コミュニケーション力を身に付けるだけでなく、ファシリテイト力や自己有用感を身に付けてほしい。</li> <li>○海外語学研修を含め、あらゆる学びで、その努力や向上を認めてあげられるような仕組みをお願いしたい。わかりやすい授業も大事だが、わからないことに主体的に取り組む姿勢や力、価値観を育ててほしい。</li> </ul>	

(4)現状と課題	教育活動	生徒の授業アンケート結果では、本校教員の授業に対する満足度は高く、生徒は授業を通じて基礎力の習得に向け真面目に取り組んでいる。一方で、自らの学力や学習習慣の傾向を明らかにして、それに従って計画的に個々の学習を進める自律的な学習が十分でない。また、習得した知識やスキルの組み合わせや掛け合わせを通じて自分なりの答えを導き出すことを苦手とする傾向があり、教科や課題研究における探究学習を軸に思考力・判断力を育成する必要がある。
	学校運営等	各分掌の主任を中心に的確な情報共有が行われているなか、事象ごとに応じた各部の連携、体制づくりが進んでいる。また、探究学習を中心に卒業生や地域の人材を活用した取組が増え、外部との連携も増えている。県民に向けては、SNSによる諸活動の発信やHPの充実、オープンスクール等の開催に取り組んでいるなか、情報収集を積極的に行い、より社会の変化を的確にとらえた情報発信（コンテンツと方法）が求められている。教職員間の支援が多い職場風土に支えられているものの、業務量の多さと多忙感を訴える教員は多い。

### 3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高等教育機関での学びに資する確かな学力の育成を目的として、大学等の情報収集に一層留意し、3年間を見通した学習活動を通じた学力向上を図る。</li> <li>・ 確かな学力の育成に向けては、手厚い学習支援を通じて安心して学べる環境を整えるとともに、自律的な学習態度の涵養に努める。また、基本的な知識、スキルの習得と思考力・判断力・表現力のバランスに留意し、特に知識やスキルの活用力の育成に注力する。</li> <li>・ 主体性の育成を目的として教科における探究学習や課題研究（「西考」）を軸に試行錯誤を繰り返して学びを進める力を育成するとともに、学校行事及び部活動をはじめとする課外活動を通じた人格の陶冶を目指す。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教職員間の情報共有を徹底し、チームとして課題解決を図る職場づくりを一層進める。</li> <li>・ 「西高サポートクルー」をはじめとする様々なステークホルダーとの関係を広げるなかで、地域に密着した教育活動を進めるとともに、積極的な情報収集を通じて、地域社会のニーズに応じた学校の魅力化に努める。</li> <li>・ 働き方改革に向け、業務縮減及び業務量の平準化を進めるとともに、学年を中心にこれまでより業務が増えつつある部署の支援に向けた体制づくりを進める。教職員が健康で意欲的に働くことができるよう、職場環境の整備、業務縮減を進めるとともに、休暇が取得しやすい環境整備に取り組む。</li> <li>・ 教職員としての使命と職責の重さを認識するとともに、コンプライアンス意識の向上に向け取り組む。</li> </ul>



	<p>⑥ 特別セミナー 2回/年 (国際科学科1, 2年生)</p> <p>⑦ 基本・基礎的な知識・能力を評価する実力テストの実施 3回/年 (1, 2年生)</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国公立大学150名以上、難関大学20名以上、東大・京大の合格</li> </ul> <p>2 探究活動の充実(上記「学習活動の1」による)</p>	<p>⑥年2回実施(夏期、新春)</p> <p>⑦実力テストを廃止し、新たにESTとして4回実施</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ R7現浪あわせて 国公立163名 難関大学18名 京大3 阪大4 名大4 (3/13現在)</li> </ul>	
<p><b>生徒指導</b></p>	<p>1 身だしなみ指導とあいさつ励行</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>① 生徒指導主事講話 3回/年</p> <p>② 登校指導 2回/週</p> <p>③ 頭髪服装指導 5回/年</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>不適切な身だしなみ件数 5件以下/年</p> <p>2 いじめの早期発見と対応</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>① 生徒会によるいじめ防止運動 2回/年</p> <p>② 生徒指導主事講話 3回/年</p> <p>③ 個人面談 3回/年</p> <p>④ いじめアンケート実施 3回/年</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>いじめ重大事態 0件</p> <p>3 人権感覚の醸成(命の大切さを学ぶ)</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>① 様々な人権問題に関する探究活動 10h</p> <p>② 関係機関等による出前授業 3h/年</p> <p>③ 関係機関での体験学習 2h/年</p> <p>④ 人権だよりの発行 3回/年</p>	<p><b>【活動指標】</b></p> <p>①各学期の始めと終わりに3回実施</p> <p>②週2回以上実施</p> <p>③各学期の始めと終わりに実施</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>5件以下</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>①年2回、津駅でのいじめ防止活動と校内でのピンクシャツデーを実施</p> <p>②各学期の始めと終わりに3回実施</p> <p>③年3回以上実施</p> <p>④年3回実施</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>いじめ重大事態0件</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>①10h実施</p> <p>②3h以上実施</p> <p>③2h以上実施</p> <p>⑤ 5回実施</p>	<p>◎</p> <p>◎</p>

	<b>【成果指標】</b> ・ 人権問題に対する理解 80% (探究活動事後アンケート)	<b>【成果指標】</b> (人権アンケートより) ・ 取組が充実したものとなった 92.1%	
<b>健康の保持増進に対する意識向上</b>	1 心身の健康保持増進 <b>【活動指標】</b> ① 外部専門家による講演会 1回/年 ② 個人面談 3回/年 ③ 保健だより発行 3回/年  <b>【成果指標】</b> ・ 毎日朝食をとる生徒の割合 90%  ・ 睡眠時間 6h以上	<b>【活動指標】</b> ①生徒向け3回実施 教員向け1回実施 ②1年生 6回実施 2年生 4回実施 3年生 7回実施 ③8回発行 <b>【成果指標】</b> (1年生対象5月調査より) ・ 毎日 87.5% 週3-4日 6.6% ・ 6h-7h 38.2% 7h-8h 39.6% 8h-9h 7.3% 9h以上 1.4%	

#### 改善課題

- ・ 探究活動について、昨年に続いて充実した取組となった一方で、一部外部との連携がうまくいかないことがあった。生徒の研究内容とうまくマッチする外部の支援先を確保することと、生徒の主体的な活動を理解し、協力いただけるよう、学校としてより一層丁寧な説明を行う必要がある。
- ・ 年間をとおして、自転車による交通事故がたいへん目立った。結果として命にかかわるようなものは無かったが、交通マナーの確認とヘルメットの着用については、保護者も含めて一層の注意喚起をしていかないといけない。また、生徒の人間関係のトラブルにはSNS上でのやりとりが関係しているため、こちらも様々な機会呼びかけていく。
- ・ 昨年度より睡眠時間6時間以上の生徒の割合が大きく増えたことから、生徒が主体的に活動する時間の確保ができつつある。一方で、朝食を毎日とる生徒の割合は昨年度より減少している。流行性の感染症による学級閉鎖が複数クラスで発生するなどもあったので、自己管理や生活環境改善の重要性を伝えていく必要がある。

## (2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	<p>1 授業力向上</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 互見授業の実施 1回/年</p> <p>② 生徒に対する授業アンケート 3回/年</p> <p>③ 保護者に対する授業アンケート 2回/年</p> <p>④ 大学入試問題研究 1回/年</p> <p>⑤ ICTの活用及び協働学習による授業を全教員が実践</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学力の向上を実感した生徒 80% (授業アンケート)</li> <li>・ 生徒の授業満足度 80% (授業アンケート)</li> </ul> <p>2 生徒の進路実現に向けた戦略的会議</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 進路研修会 5回/年</p> <p>② 国際科学科にかかる運営委員会、学力検討委員会 3回/年</p> <p>③ 主任会議 10回/年</p> <p>④ 非認知能力測定にかかる研修会 1年 2回/年 2年 2回/年</p>	<p>【活動指標】</p> <p>① 1回実施</p> <p>② 3回実施</p> <p>③ 2回実施</p> <p>④ 1回実施</p> <p>⑤ 全教員が1度以上実践</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (7月実施学校生活満足度調査より)</li> <li>1年 77.9%</li> <li>2年 88.3%</li> <li>3年 92.4%</li> <li>・ (1、2学期授業アンケートより)</li> <li>1学期平均 83.2%</li> <li>2学期平均 86.7%</li> </ul> <p>【活動指標】</p> <p>① 5回実施</p> <p>② 3回実施</p> <p>③ 4回実施</p> <p>④ 1年 1回 2年 1回</p>	
保護者・地域との連携	<p>1 中学校との連携</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 地域の中学校への出前授業 10校以上</p> <p>② 出身中学校との情報共有 中学校訪問2回/年</p> <p>2 探究活動等における地域人材活用</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 地域人材による出前授業 30講座/年</p> <p>② 地域での体験活動 10回/年</p>	<p>【活動指標】</p> <p>① 8校授業実施</p> <p>② 2回実施 (6月、11月)</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 30講座以上実施</p> <p>② 10回以上実施</p>	◎

	<p>3 異校種連携</p> <p>【活動指標】 生徒による地域小学校での授業実践 3回/年</p> <p>4 P T Aとの連携事業</p> <p>【活動指標】 進路研修会 5回/年</p> <p>【成果指標】 本校の教育活動について満足している保護者 80% (保護者満足度アンケート)</p>	<p>【活動指標】 (西が丘小学校) 授業見学2回 授業実践1回 課題研究の連携1回</p> <p>【活動指標】 5回実施</p> <p>【成果指標】 (11月保護者アンケートより) R7 94.5% 1年 95.4% 2年 92.9% 3年 94.9%</p>	
働き方改革	<p>1 教職員の総勤務時間の縮減</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 定時退校日の設定 1回/月 ② 部活動休養日の設定 1回/週 ③ 会議の時間短縮 60分以内90% ④ オンラインを活用した研修等の設定 3回/年</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間外勤務時間が月45h超の教職員 0人</li> <li>・ 時間外勤務時間が年360h超の教職員 0人</li> <li>・ 一人当たりの月平均時間外勤務時間 30h以下</li> <li>・ 一人当たりの年次休暇・夏季休暇取得日数 15日以上</li> </ul>	<p>【活動指標】</p> <p>① 1回/月 100% ② 1回/月 99.5% ③ 60分以内 97.7% ④ 3回実施</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間外勤務時間 月45h超 139人</li> <li>・ 時間外勤務時間 年360h超 20人</li> <li>・ 一人当たり月平均時間外勤務時間 26.1h</li> <li>・ 一人当たり年休・夏季休暇取得日数 14.6日</li> </ul>	◎
コンプライアンスの遵守	<p>1 教職員一人ひとりのコンプライアンス意識向上</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 「学校信頼向上委員会」の実施 3回/年 ② 研修会の実施 3回/年</p>	<p>【活動指標】</p> <p>① 3回実施 ② 3回実施</p>	◎
改善課題			

- ・遠隔授業が2年目となり、学年をまたいで受講する生徒も発生した。教務部と学年が連携し運用しているが、出席状況や取得単位数など、管理することも多くなり、担任等の負担はますます大きくなっている。
- ・生徒の思考力や判断力を測るツールを導入した。初年度ということで、測定結果の分析と学年・担任の思いが繋がらないこともあり、打ち合わせを繰り返しながら進めてきたため、学年全体への研修会の機会を予定どおり取ることができなかった。年度末に機会を設けて、次年度以降、効果的な運用ができるようにしていく。
- ・時間外勤務時間は昨年度よりやや改善されているが、年休・夏季休暇取得日数は減っている。引き続き、休暇を取得しやすい環境・雰囲気づくりに努めていきたい。

## 6 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特色化を一層はかってほしい。探究活動を中心に、地域のネットワークを活用した生徒支援充実させるとともに、「西高サポートクルー」をコンソーシアム化していきたい。</li> <li>・ホームページ等、中学生が「いいな」と思える広報活動をしてきている。授業公開でも熱心な生徒の態度を多く見る事ができた。今後は生徒どうしの対話や探究的な活動を重視した授業を展開していくためにも、教員の授業に対する長期的な意識改革を促していく。</li> <li>・生徒の通学路には、交通事故が起きやすい危険な箇所が多い。自転車利用の際のヘルメット着用は自分の身を守るためにも大事なことであり、着用については、生徒だけでなく保護者にも訴えかけていくことが重要だ。</li> <li>・自治会として、警察等関係機関に周辺道路の速度制限を要望している。今後も地域からも交通事故防止に向けた行動を起こしていく。</li> <li>・次年度新入生から学習端末がiPadとなる。2年生・3年生や教員がchromebookとの併用で不便なことにならないように、どちらでも利用可能な教育ツールを導入する。教員研修や情報担当者の増員なども検討していく。</li> <li>・教員の残業時間については、勉強も部活動もさかんな学校では難しい課題であるが、継続して削減に向けて取り組んでいく。</li> <li>・時間外勤務の要因として部活動が考えられる。部活動のあり方についても継続して検討し、教職員の働き方改革につなげてほしい。</li> </ul>
----------------------------	--

## 7 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>○学習活動 探究活動では「西高サポートクルー」との連携体制を強化し、新たな支援先には本校の生徒の現状も含めて、しっかりとした説明を実施して連携を深めていく。</p> <p>○キャリア教育 活動の回数は目標を達成できているので、実施の時期等、生徒・教員の負担が分散さ</p>
---------------------	---

	<p>れるように計画する。9月のスタディーサポート（1年）を廃止するなど、精選も図る。</p> <p>○生徒指導 交通安全や交通マナーに対する意識を高めるため、マネジメントシートの取組項目にも加えて、継続的な呼びかけを計画する。</p> <p>○健康の保持増進に対する意識の向上 「宿題・課題の過多が不登校につながる生徒」についての職員研修を1学期に実施し、教員側の意識を高める。また、GPS-Academicを夏に実施し、クラス編成の参考資料としたり、2学期以降の生徒の心身不調のサインを早期に発見するようにする。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>○組織運営 国際科学科の活動を、大学・企業の連携や「進路」「社会」「未来」とのつながりを強める「津西CONNECT」とし、内容を深めていく。 次年度1年生から学習端末がiPadとなる。授業中に生徒の状況を把握し、アドバイスできる教育ソフトを導入し、一層の授業の充実を図る。また、非認知能力測定にかかる研修会を計画的に実施し、生徒支援につなげる。</p> <p>○保護者・地域との連携 地域中学校への出前授業に加えて、学校案内やチラシ等の配布も定期的に行うことで、本校の教育活動を広く知ってもらえる機会を増やす。</p> <p>○働き方改革・職場環境の改善 部活動指導員やスクールサポートスタッフの活用を引き続きすすめていく。準備室等の環境整備も引き続き検討していくとともに、休憩スペースの確保も検討したい。</p> <p>○コンプライアンスの順守 コンプライアンス研修をはじめ、毎年取り組んでいる。今後も社会の状況に応じた研修を計画し、実施していきたい。また、研修会だけでなく、日常的に情報を共有することで、日頃からコンプライアンス意識を高める取組をすすめたい。</p>